

# 社会意識の国際比較

2010年2月1日（月） 13:30 ~ 16:30

大阪大学人間科学研究科 東館 ユメンヌ・ホール

1. Mobilizing nationalist sentiments: Which factors affect nationalist sentiments in Europe?  
愛国心を駆り立てる：何がヨーロッパの愛国心を規定するのか

Mikael Hjerm 氏 (スウェーデン・ウメオ大学)

コメンテーター 田辺 俊介 氏 (東京大学)

2. Class, Attitudes, and the Welfare State: Comparative Perspectives  
階級、態度、福祉国家：国際比較の観点から

Stefan Svallfors 氏 (スウェーデン・ウメオ大学)

コメンテーター 吉川 徹 氏 (大阪大学)

グローバル化がすすむなか、「国民」という単位の自明性はもはや信じられてはいません。しかしその一方で、国によるものの見方の違いがいまだ存在することもまた確かです。ある国ではより普遍的な社会保障制度が支持され、他の国では支持されない。ある国では女性が働くのは当たり前だと考えられている一方で、他の国では家にいるのが当たり前だと考えられている。このシンポジウムでは、スウェーデン、ウメオ大学から2人の先生をお招きし、こうした国による意識の違いが、何によって生み出されているのかについてお話しいたします。

ミカエル・イエルム先生は、ナショナル・アイデンティティとナショナリズムについて、ヨーロッパを中心に計量的手法で研究をしておられます。シンポジウムでは、ヨーロッパにおけるナショナリズムが、どのような条件のもとで生じるのかについてのご報告いただきます。

ステファン・スヴァルフォース先生は価値意識と社会階層、社会制度の関連について、長年研究をしておられます。シンポジウムでは、社会階層が規範意識に与える効果が国によってどのように異なるのか、そしてその違いは何によって規定されているのかについて、ご報告いただきます。

参加申込は不要です。当日会場にお越しください。